

留学報告書

岩見沢校・スポーツ文化専攻・アウトドアライフコース

3年・櫻井 あかり

漢城大学・韓国・2022年9月～2023年2月

私はソウル特別市にある漢城大学に2022年の9月から2023年の2月までの6ヶ月間の交換留学をしました。短い期間ではありましたが、多くの学びを得た留学にすることができました。

大学生活について

漢城（ハンソン）大学には、語学堂と呼ばれる留学生が韓国語を学ぶための学校があります。私は6ヶ月間大学の授業は受講せず、語学堂で韓国語の学習をしました。語学堂は、1～6級までクラス分けがされており、私は前半の秋学期に3級、後半の冬学期に4級の授業を受けました。クラスは、入学初日に行われる筆記と面接によるテストの成績によって決定されます。私は、留学を大学1年から希望しておりあらかじめ韓国語を勉強して渡韓しましたので、中級と言われている3級からのスタートでした。

大体各級2クラスで、1クラスの人数は15人ほどで構成されています。3級の際の私のクラスは、私含め6カ国の生徒が所属していました。どの級もベトナム人とミャンマー人の比率が高かったです。授業初日はクラス中にベトナム語とミャンマー語が飛び交っており戸惑いましたが、実際に会話をしてみると中級クラスということもあり、皆それなりに韓国語を流暢に話すことができました。

授業は毎平日9時から12時50分で50分授業が4限行われます。久々に高校生のような生活リズムになり、初めは身体が慣れず学校に通うだけで一苦勞でしたが、徐々にその生活にも慣れ楽しく登校していました。授業進行は、高麗大学から出版されている「재밌있는 한국어（楽しい韓国語）」という教科書を元に行われ、話し方・書き方・読み方をバランスよく学習することができました。宿題はそれほど多くありませんでしたが、予習復習をしないと授業内容が理解できないため、授業がない午後も韓国語の勉強で忙しい日々を送っていました。

語学堂は、多くの国籍の人たちと出会うきっかけとなりました。日本で生活しているだけでは出会えなかったであろう国籍の友人たちを作ることができ、貴重な経験を積むことができました。全く違う環境で生活してきた友人たちと慣れない韓国語で会話をするため、頻繁に意見の食い違いや誤解などが生じる場面がありました。ある時、ミャンマー人の友人が「今世界で起きている戦争は私たちと同じような状況なのかもね。思っていたより戦争は些細なことで起きているのかもしれないよ。」と言ったことが今でも忘れられません。ミャンマーは軍事クーデターが起きていることもあり、私には想像できないほどの身の危険を感じてきたであろう友人からこの言葉が出たのには、考え深いものがありました。国を

超えて人々と交流することは新たな発見が多く面白いことが多い反面、難しさも多いことを学んだ語学堂生活となりました。

大学行事について

9月には、大学の文化祭がありました。野外行事に関するコロナ対策の規制が緩和されてから初めての文化祭であったため、かなりの盛況ぶりでした。普段の学生たちは、お洒落に目もくれず常にノートパソコンを持ち歩いているほど勤勉なのですが、文化祭では目一杯のおしゃれをしてお酒を飲みながら楽しんでいる姿が非常に印象的でした。私は、日本人留学生たちと一緒に、焼きそばや団子などの日本食の販売をしたり、有名歌手の公演を見たりしながら文化祭を楽しみました。この文化祭で一番衝撃を受けたことは、野外のマスク着用義務が解除されたために大学長が「ぜひマスクを外して文化祭を楽しみなさい」と学生たちに呼びかけた事です。基本的に慎重に物事を進める日本では、同じ状況下でもこのような呼びかけを学校の責任者がすることはないと思います。何事もスピード対応を重視する韓国の文化が垣間見えた出来事でした。

11月には、留学生を対象とした文化体験授業に参加しました。内容は1泊2日の江原道旅行で、羊牧場や海、山といった韓国の自然を存分に体験できるものでした。この旅行で、マックスという江原道で有名な麺料理を食べたのですが、正直あまり美味しいと感じませんでした。韓国の食事は口に合うものが多いのですが、初めて美味しくないと感じた料理に出会い、普段のソウルでの生活とは異なる経験ができ非常に有意義な旅行となりました。また、この文化体験授業は語学堂生とは異なり、正式に漢城大学に留学し大学の授業を受講している留学生のみ参加可能であったため、旅行中、留学生たちの韓国語能力の高さに圧倒されました。同国籍の人同士でも韓国語で会話していたり、専門用語が多く含まれている観光地の説明を苦勞することなく聞き取っている姿を見て、より一層自分も韓国語の勉強に力を入れなければいけないと決心するきっかけになりました。

アンバサダー制度について

アンバサダー制度は、私の留学生活には切っても切れない制度です。「アンバサダー制度」とは、漢城大学の学生と語学堂生が1対1または、1対2のペアとなり、全7週のうち週に1回3時間以上の交流を行うという活動です。語学堂生は、事前にどのような人とペアになりたいか、どのような交流をしたいか、などの希望を出し、希望に沿った学生とペアを組むことができます。反対に学生は、選抜試験を得て参加しているため語学堂生の安全性も確保されており、語学堂生が韓国人の友人を作るのに適した制度となっています。この制度で私は日本のアニメと音楽が大好きなパク・ヒョンソという女子学生に出会うことができました。7週の間、私が好きなカフェ巡り、美術鑑賞、登山など多様な活動をしました。彼女とは趣味嗜好が似ていることもあり、毎週彼女と一緒に活動することが楽しみで仕方ありませんでした。

この活動を通して一番自分の身になったことは、会話能力の向上です。語学堂では、外国

人同士の教科書通りの会話や曖昧な発音でも理解してくれる先生などの環境のおかげで、会話で苦労した経験があまりありませんでした。しかし初めてヒョンソと会話した時は想像していた以上に理解できないことばかりでした。4週ほどは、お互い身振り手振りで一生懸命物事を伝えようとしたり、どうしても理解が難しい場合は翻訳機を使うなど、活動が終わる頃には、お互いぐったりしている様子でした。それでも活動中は、お互いに会話することを決して諦めなかったことや、頻繁に SNS を通して会話をしたおかげでアンバサダー制度の最優秀ペア賞を受賞するほど、非常に親しくなることができました。彼女は、アンバサダー制度が終わった後も友達として継続的に一緒に遊んでくれ、彼女の友達や家族を紹介してくれたり、何か生活で困ったことがあるとすぐに助けの手を差し伸べてくれました。これからは彼女のために韓国語を勉強し、韓国に行きたいと思うほど、かけがえの無い親友を作ることができました。

まとめ

この留学で私は、日本の生活がいかに心地よく楽なものであったかということを感じる事ができました。留学中の私生活では、朝鮮戦争への理解を深めようと、軍事境界線や戦争博物館を訪問したり、兵役を終えた男子学生の話の聞いたりしたのですが、軍事境界線では厳重な警備体制や初めて本物の銃を目の当たりにしたり、戦争博物館では戦争を褒め称えているような掲示物に疑問を感じたりと、今まで自分が感じたことがない感情を味わう機会がありました。これからは、これらの経験を周囲の学生に積極的に発信し、留学に興味がある人のサポートをしていきたいと思っています。多様な経験と感情を学ことができ、非常に有意義な交換留学にすることができました。



語学堂生（3級）



戦争博物館



文化体験



ヒョンソと紅葉狩り